

平成 22 年 5 月 21 日

千葉大学での A 型インフルエンザ感染情報（第 27 報）

千葉大学では、5 月に入っても少数ですが持続的にインフルエンザ発症報告が続いています。報道にもありましたが、関東甲信地方の某大学で、5 月 12 日ごろから 130 名程度の新型インフルエンザ集団発生が報告されました。この集団発生は、全寮制のキャンパスで起こっており、集団生活内では新型インフルエンザが容易に感染拡大を起こすことを示唆しています。千葉大学の皆様におかれましても、体調が悪い場合には、外出を自粛する、行事への参加を控えるなど十分に注意を払ってください。

今後も引き続き、感染症対策の基本となる手洗い・うがい・咳エチケット励行をお願いしたいと思います。

千葉大学の学生・職員が、新型インフルエンザ・A 型インフルエンザ又はこれらのインフルエンザの疑いと診断された場合には、
総合安全衛生管理機構 043-290-2214（ナース室）もしくは
043-290-2219（機構事務室）

info-hsc@office.chiba-u.jp

へご連絡ください。

集団感染や重症患者の発生など、緊急時には、総合安全衛生管理機構 043-290-2214（ナース室）、043-290-2219（機構事務室）、にご連絡ください。また、インフルエンザに関するご相談については、043-290-2214（ナース室）・E メール<info-hsc@office.chiba-u.jp>へご連絡ください。

<そのほかの注目すべき感染症>

A 型肝炎：A 型肝炎の発生報告数が、過去 4 年間の同時期と比べて最多（全国で第 16 週までに 144 例）となっています。A 型肝炎の発生は、冬から春・初夏にかけてが多く、感染源としてカキ・貝類などが推定されています。潜伏期は 2～6 週間で、発熱・頭痛・筋肉痛、腹痛・食欲不振・嘔吐などの消化器症状、肝機能低下による黄疸を呈し、慢性化することは希です。患者全体の約 1 割が海外渡航からの帰国者であり、ほとんどが中国、インド、東南アジア地域での感染です。

予防としては、①手洗いの励行などの一般的予防法、②食品を加熱する際は、中心温度 85℃以上で 1 分間以上行い、生ものを調理した際は台所用塩素系漂白剤などで調理器具を消毒する。③渡航先での生水、氷入りの飲み物や生ものには注意が必要、などがあげられます。